

中国の交通事情その2

細谷 和宏

今月は先月に続き、中国の交通事情のその2としまして、私が実際に体験したタクシーでの出来事についてお伝えします。

最近私はよくタクシーを利用します。ちなみにタクシーは大学から30分くらい乗車する太原駅、その他繁華街へ行くのもだいたい300円くらいで行けます。日本では考えられない額ですが、公共バスだと一路線バスカードを持つと8円です。私が先日タクシーに乗ったときの話です。あるところへ中国人大学院生と日本語の先生とともに出かけた帰りのタクシーでの出来事です。われわれは大学からちょっと離れた少し郊外に近いあるパビリオンみたいな建物内で行われた催事に出かけました。

帰りは、まだ夕暮れまで時間があつたので大学の方に向けてぶらぶらと散歩をしながら帰ってきたのです。大学まで全部歩いて帰れる距離ではないので、少しでもタクシー代を節約したいと大学の方向に歩いていました。しかし、大きな川に阻まれなかなか対岸に渡れず、あれよあれよと大学とは違った方向に歩いて行ってしまったのです。そこは商店もなく、車も高速道路なみにスピードを出して通行しているようなところで、客を乗せるために流しているようなタクシーは一台も見つかりません。そもそも歩いている人も自転車もわれわれ以外にはいないような道だったのです。途方に暮れていたところ、運よくUターンをしてきたタクシーを遠くに見つけ、みんなでそのタクシーに手を振り、そのタクシーはわれわれに気づきなんとか乗せてくれることになりました（前にもちょっとお伝えしたことがありますが、中国のタクシーは儲からないと思うと平気で乗車拒否をします。）。

みんなは長距離を歩いた疲れとタクシーに乗れた安堵感で思わず微笑んでいました。走り出してしばらくして、友人の大学院生のGPSで帰り道を調べていると、明らかにそのタクシーは最短のルートから逸れようとしているのです。彼はすかさず車を止めて改めて道を示しました（中国ではどのルートを通って目的地に行くかを伝えるのが常識のようです。）。すると、タクシーの運転手は大声を出し始めて、こんな道では行けない、とでも言っているように院生に詰め寄り始めました。運転手は郊外で客を乗せて、今日一番の稼ぎができるとも思っていたところ、適切なストレートの道を言われたので怒り始めたのです。自分が選択した道が一番近いんだと何度も友人に罵声を飛ばします。それ以降、急ブレーキをかけるは急発進はするは、さかんにその院生を大声で罵り始めるはさんざんでした。あげくのはてにわれわれが車内で日本語だけで話をするとその運転手は日本語でわれわれが運転手の悪口を言っていると思ったのか更に

機嫌を悪くして大声で怒鳴ります。さらにわれわれの日本語で相当頭にきたのか、中国ラジオのボリュームを最大にしてわれわれが話ができないようにするのです。

われわれも相当気分を害し、やっと大学までたどり着くと今度は料金を払い終えた院生になにやら大声で罵り、あげくには領収書を院生に向けて投げつけるのです。さすがにその光景をみて私もカチンときて、もしその運転手が掴みかかってこようものなら正当防衛の範囲内でタクシー外につまみ出してやろうと思いましたが、そのタクシーは猛スピードでわれわれに罵声を飛ばしながら去っていきました。

それから院生に運転手は何を言っていたのか聞いたところ、領収書を要求したら、領収書があるならおつりとして返した2元をよこせ、と言ったということです。もちろん、中国でも領収書は無料ですが、それなら領収書はいらないと、おまえがほしいって言うから発行したのにいらぬなら受け取らなくても金を置いていけと言ったということです。

僕はこのときちょっと悲しくなりました。なんでこんな思いまでして客としてタクシーに乗らなくてはいけないのか。

それ以降も何度かタクシーに乗るとわざと日本語が話せないようにボリュームを大きくする運転手は他にもいました。そこで、われわれはタクシーに乗るときは決して日本語を話すのをやめよう決めました。私がたどたどしい中国を話すと外人だとすぐにばれるので、タクシーに乗ったときは私だけ中国語も日本語も話をしないようにしています（ちなみに、タクシー内で英語だけを話すと何も起こらないのは対日感情の問題が根底にあるのでしょうか。）。



太原市内でも大渋滞は頻繁にあります。

次に、交通事情とは関係がありませんが、太原市共産党中央本部の爆破事件以降の状況を少しお話したいと思います。結論から言うと、特に太原市は今までと変わらない生活が続いています。しいていえば、爆破事件以降大学内に武装した警察車両のパトロールが頻繁に行われていることです。9月、10月はこんな車両みなかったなと思うような武装警察車両を多く見ます。もしかしたら、冬場の恒例のパトロールなのかもしれませんが、初めて冬をここ太原で過ごすので前年と比較できないので申し訳ありません。

最後に、中国の対日感情についてお話しして終わります。

このところ、更に対日感情は悪化する一途を辿っているようです。中国のトップニュースで日中問題を挙げる日が多く、もう戦争しかないまで報じているようです。数年前の尖閣諸島問題の際は、山西大学の日本人は一人で食事に行ったりしてはいけないとの指示があって団体で食事に行った時期もあったと聞きました。その際も留学生寮に反日団体が団体で現れ、この寮には日本人はいるかと迫ってきたそうです。今のところ、そこまではひどくないですがタクシーだけでなく随所で反日感情を露わにする人をみます。かと言ってこちらは対処のしようがないので出方を傍観するか、罵声を聞き流すしかありません。



先生と留学生で中国餃子作りをしてその後パーティをしました。